

(3) 活動状況写真

①イチョウ（竹田市）の治療



治療前（他植物の浸食）



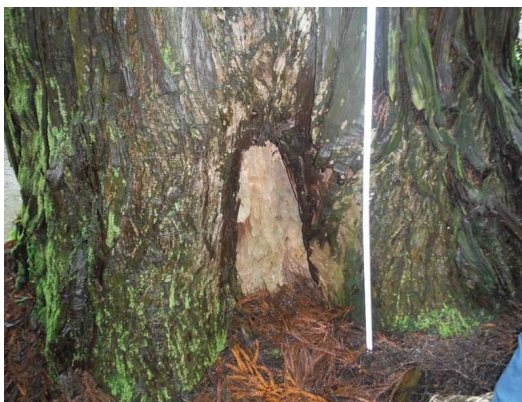
治療後（剪定）

②イチイガシ（国東市）の標柱設置



設置の様子

③樹木医による診断の様子（津久見市：ウバメガシ）



- ・ 診断に基づき診断書を作成

(4) 今後の課題と取組

特別保護樹木（林）は樹齢が100年以上の古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図る。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

【活用例：城原神社の森（竹田市）での「森の先生」派遣による体験学習】



5 次代の森林づくり活動リーダー育成事業

(1) 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

②目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図る。

③事業内容

「地域活動の強化」、「他の少年団との交流」、「リーダー候補生として育成」の3つのステップに沿った支援を実施している。

「地域活動の強化」

- ・少年団の地域活動への支援として、資材や機材の購入経費の補助を実施する。



【植樹活動】



【苗木育成】



【全国育樹祭参加】

「他の少年団との交流」

- ・全少年団を対象とした交流会「つどい」を実施する。

【参加者】 県下少年団

【行程等】 令和4年8月9～10日

※新型コロナウイルスの影響により中止

○参考 実施状況写真（令和3年度）



【活動発表】



【森林での体験学習】



【記念撮影】

「リーダー候補生として育成（リーダー育成研修の開催）」

- ・世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施する。

【参加者】 県下少年団

【行程等】 令和4年7月27日～29日（2泊3日）

※コロナにより中止

○参考 実施状況写真（令和元年度）



【屋久島環境文化村センター】



【志戸子ガジュマル園】

（3）成果

- ・少年団の地域活動への支援を行い、活性化を図った。
- ・新型コロナウイルスの影響で、「つどい」と「リーダー育成研修」は中止となった。

（4）今後の課題と取組

地域活動の内容を共有できる場が少ないため、活動発表の場を設ける。また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、内容をさらに拡充させた研修会や活動を実施する。

Ⅲ－４ 森の子学校体験活動推進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県教育委員会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・子どもの体験活動の充実
体験活動を推進することによる児童生徒の自己肯定感の向上
森林学習は様々な SDGs に貢献、気候変動・災害と密接に関連
- ・大分県の林業の課題
人工林への対応・災害に強い森づくり・担い手育成
- ・学びと連動した体験活動
理科・社会などの各教科と関連付けた森林の役割や保全の学習

(2) 目的

社会教育施設である青少年の家を活用し、学校教育と連動した事前学習、直接体験、事後学習からなる学習プログラムを実施することにより、次世代を担う子どもたちへの森林・林業教育の推進を図る。

(3) 事業内容

- 1 森林・林業教育プログラムの体系化
(1) プログラム委員会 (2) フィールド整備
- 2 モデル校によるプログラム実践
香々地・九重青少年の家での集団宿泊研修に森林・林業教育プログラムを活用する学校に事前学習・直接体験・事後学習からなる学習プログラムを提供とモデル校による森林・林業プログラムの実践

3 成果

県内小学校9校、中学校1校で森林や林業に関する事前学習・直接体験・事後学習を実施することで、学校教育での森林・林業教育を推進することができた。アンケート調査の「大分県の森についてよく知っている」等の質問項目に対して、事前アンケートに比べ事後アンケートで数値の上昇が見られた。

4 今後の課題と取組

広報を充実させるとともに、森林・林業教育プログラム実践協力校を拡充させる。

5 実施状況写真



樹木オリエンテーリング



林業従事者による講義



原木しいたけ栽培学習



事後学習の様子

Ⅲ－５ 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

1 実施主体

九重青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・児童・生徒の自然体験活動・環境学習の機会が不足している。
- ・森林環境学習指導者の減少および高齢化にともない、新たな指導者の養成が急務である。

(2) 目的

森林環境学習を推進するため、森林環境学習指導者の養成と児童・生徒への学習機会の提供を行う。

また、子どもたちの体力・運動能力の向上を図るとともに、木への親近感を高めるため、運動遊びを通じた体験活動を行い、幼児期から木や森の魅力を体感できる機会拡充を図る。

(3) 事業内容

- ①幼児期からの環境学習に関する学習機会の提供
- ②森林環境学習指導者の資質向上及び新たな指導者養成
- ③自然環境での運動（遊び）の推進

3 成果

緑の子ども園・緑の楽校（R4 から「森の子レンジャー」）事業満足度

年度	H30	R1	R2	R3	R4
目標	90%	90%	90%	99%	99%
実績	100%	100%	99%	100%	100%

緑の探検隊（R4 から「森の楽校」）生きる力プラス変容（R3 から環境意識プラス変容）

年度	H30	R1	R2	R3	R4
目標	7.0%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%
実績	11.4%	11.2%	12.2%	12.1%	14.9%

※独立行政法人国立青少年教育振興機構が開発した IKR 評定により数値化した、探検隊参加前後の、子どもたちの「生きる力」の増加率

※令和3年度より調査方法を IKR 評定から環境意識調査へ変更

森林の環境学習サポート隊 事業参加者

年度	H30	R1	R2	R3	R4
目標	700名	800名	800名	800名	800名
実績	1,092名	1,241名	348名	394名	441名

4 今後の課題と取組

次代を担う子どもたちの自然環境に対する興味・関心を高め、「生きる力」を育むことができる事業実施を図る。

また、子どもたちの森林環境学習機会の増大にむけ、森林環境学習指導者の拡大と指導力向上につながる研修の充実を図る。

子どもたちの森林や木への関心を高めるとともに、体力・運動能力・精神力の向上を図るための、環境学習を推進する。

5 実施状況写真



【森の子レンジャー】



【森で遊ぼう】



【森の楽校】



【森林の環境学習サポート隊】

Ⅲ－６ 未来の環境を守る人づくり事業

【うつくし作戦推進課】

1 実施主体

大分県（委託先：おおいたうつくし推進隊、NPO法人、ボランティア活動などの社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

様々な環境問題の解決のためには、子どもの頃からの実体験を伴う環境学習が重要であるが、学校現場においては時間や予算がないといった理由により、年間を通じた計画的な環境学習が十分には実施されていない。

他方、環境学習に取り組む団体もあるが、資金面の問題から単発的なものが多く、体系的な活動が困難な場合が多い。

（２）目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため、県内の子どもたちが環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考えて行動する力を育成し、環境保全の取組の担い手となってもらう。

（３）事業内容

①おおいたこども探険団推進事業

県内の子どもたちに対する自然体験活動など、年間を通じて実体験を伴う環境学習を行う事業を県が団体に委託して実施する。

②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

地域や小中学校、企業などで行われる環境に関する勉強会などに、各分野の専門知識を有した環境教育アドバイザーを派遣する。

3 成果

環境教育アドバイザー派遣事業については、前年度に比べ派遣数も受講者数も増加し、地域や学校、職場などにおける環境教育の機会を提供することができた。

①おおいたこども探険団推進事業

年度	H30	R1	R2	R3	R4
採択団体数	15	12	8	9	9

②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

年度	H30	R1	R2	R3	R4
派遣実績（人）	153	165	96	114	153
受講者数（人）	8,750	8,696	3,486	5,822	7,169

4 今後の課題と取組

おおいたこども探検団推進事業については、活動を実施する場の拡大や、希望する団体について県環境教育アドバイザーの助言を受けることができる体制を強化し、事業応募団体の多様化と、団体のレベルアップを図っていく。

環境教育アドバイザー派遣事業については、アドバイザー登録者の増加及び企業への派遣促進に向け取り組んでいく。

5 実施状況写真



①おおいたこども探検団推進事業
アソビLAB
(しいたけのコマ打ち体験)



②大分県環境教育アドバイザー派遣事業
(生き物調査)

Ⅲ－７ 全国育樹祭開催事業

(全国緑の少年団活動発表大会及び交流集会)

【全国育樹祭推進室】

1 実施主体

第45回全国育樹祭大分県実行委員会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

・専属の指導者が不足する等、みどりの少年団を継続して活動できる体制が整っていない。

(2) 目的

本県で開催する全国育樹祭併催行事である「全国みどりの少年団活動発表大会」および「全国みどりの少年団交流集会」を行うことにより、県内少年団の活性化を図り、育樹祭後の少年団活動の推進に繋げる。

(3) 事業内容

- ・全国緑の少年団活動発表大会の開催
- ・全国みどりの少年団交流集会の開催

3 成果

令和4年11月12日に大分市の iichiko 総合文化センターiichiko 音の泉ホールにおいて、全国緑の少年団活動発表大会を開催した。全国から選出された緑の少年団と県内外の緑の少年団が一堂に会し、日頃の活動の成果を発表することにより、相互研鑽を図るとともに、大会終了後の交流集会でのレクリエーションなどを通じて、少年団同士の交流を深めた。

4 今後の課題と取組

全国育樹祭の取組を一過性のものにせず、次代の森林・林業を支え担う人材の核として、みどりの少年団が行う活動をさらに活性化させる必要があり、引き続き活動支援を実施する。

5 実施状況写真

○全国緑の少年団活動発表大会



みどりの奨励賞表彰



活動発表

(大分県三郷小学校みどりの少年団)

○全国緑の少年団交流集会



全国緑の少年団交流集会

Ⅲ－８ 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業

【高校教育課】

1 実施主体

高校教育課が行う事業において、日田林工高校林業科を対象に実施

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

高齢化などにより林業経営体数が減少しており、森林荒廃や農山村の崩壊が危惧されている。そんな中、日田林工高校林業科では、専門性を活かした教育を実施しており、大分県林業に貢献できる人材を育成している。今後さらに関連就職・進学を増やしていくことが求められる。

(2) 目的

県林業を牽引する担い手育成では、森林・林業管理の効率化・省力化が期待できるスマート林業を活用するなど、先端的な森林管理の考え方や手法を直に学ぶ体験を通して、地域林業における課題意識を持たせ、その解決に向けた意欲喚起を行っていく。併せて、小中学生に対しても森林管理の重要性を伝え、林業の裾野を広げることに取り組む。

(3) 事業内容

①外部講師招聘授業

スマート林業として林業界における進出が著しいドローンの活用について外部講師を招聘し、グラウンドでのデモ飛行や演習林での3D測量等の体験を通して先進技術を学ぶ。

②GE（グリーンエデュケーション）事業 <小中学校への出前授業>

小中学生を対象に、環境と森林の関係や林業科の学習内容を理解してもらう。高校生が先生役となり、自らが教えることにより、自分たちが学んでいる林業についての理解を深める。

③事業所見学（ニチハ株式会社下関工場）

木材関連企業の実態を見学することにより、専門教科に対する興味関心を高めるとともに、望ましい職業観を養成し、進路選択の指針とする。

④国内研修（岡山県）

林業の先進県である岡山県で、スマート林業やバイオマス活用等による先進的かつ持続可能な森林・林業管理を学び、林業に関する知識や技術を向上させ、視野を広げるとともに思考を深める。また、他県の人々と交流を持つことで、産業における地域性を知るとともに、郷土愛等の醸成を図る。

3 成果

外部講師招聘事業では、ドローン測量に関する最新の技術や情報を学ぶことができ、専門科目「測量」や「総合実習」を中心に、生徒の見識を広めることができた。特に、演習林の3D模型製造では、楽しみながら学ぶ生徒が多かった。

GE事業では、日田市内の小中学校での出前事業を展開した。環境に関する授業や木工品製作（椅子づくり）を行うことで、小中学校の児童生徒や教員に対して林業科の取

り組みを紹介することができた。

国内研修は、林業に関する新たな知識を得る機会となり、最新のICT機器を活用した体験的な活動もあったことから、大変有意義だったとの声が多く聞かれた。教員にとっても、新たな知識・技術を体験的に学ぶ好機となった。研修で得た知識を授業や実習等に活かしていきたい。

2年生を対象としたアンケートでは、林業関連の就職・進学への関心が高まった生徒の割合は57.0%（昨年度56.7%）で、昨年並の水準を維持することができた。

4 今後の課題と取組

コロナ禍で研修先の選定と日程調整等が困難であったが、社会的なコロナへの対応が見直されることから、今後はコロナ禍以前のような研修が実施できると考えられる。スマート林業等の先端技術を学べる研修を実施し、生徒の林業への知識・技術向上を図りたい。国内の研修先については、岡山県以外も検討し、研修の質も高めていきたい。

5 実施状況写真



ドローンに関する研修（講義）



ドローン測量（現地での講習）



事業所見学

（ニチハ株式会社下関工場）



国内研修（バイオマス工場）



森林3次元計測システム
による測量（新見市）



「百年の森」構想
（西栗倉村）

Ⅲ－9 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進事業

【自然保護推進室】

1 実施主体

佐伯市

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

祖母・傾・大崩エリアのユネスコエコパーク登録に伴い、登山者をはじめ、来訪者増加が想定されることから、安全性・快適性の向上など、受入れ環境の向上・改善が求められている。

(2) 目的

ユネスコエコパークエリア内に所在する老朽化した国定公園施設等を整備し、森林レクリエーション環境の改善と、自然と共生した地域振興を図る。

(3) 事業内容

- ・佐伯市藤河内溪谷の遊歩道の整備（L=33.0m）

3 成果

老朽化した施設の改修などにより、安全性の確保や快適性の向上に寄与することができた。

4 今後の課題と取組

生態系の保全と、自然と調和した持続可能な地域の発展を図るため、今後も引き続き国定公園施設等について、保全・改修等を行っていく。

5 実施状況写真

